第１３７回　関西大学メディア懇談会（Web 開催）　実施概要

１　日　時　　2021 年 5 月 19 日（水）15：00 ～16：30

２　場　所　　オンライン形式（Zoom ウェビナー）

３　内　容

(1) 研究発表（15：05～15：35）

発表者：　菅原 慎悦（社会安全学部准教授）　Ｐ１～１２

テーマ：　「安全／安心」の二分法を超えて －原子力の「安全目標」の議論から－

(2) 学内状況の説明（15：35～16：10）

① コロナ禍における 2021 年度の大学体制　Ｐ１３～１５

② 2020 年度学生生活実態調査について　Ｐ１６～１７

③ SDGs 推進に関する産官学連携を強化！「関西大学 SDGs パートナー」の募集を開始　Ｐ１８～１９

④ 減プラで SDGs 推進！傘シェアリングサービス「アイカサ」を導入　Ｐ２０～２１

(3) 意見交換・質疑応答（16：10～）

・テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。（音声および Q&A いずれでも可）

※質疑応答の時間外においても、Q&A 機能を使っての質問は随時受け付けます。

→時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

４　大学側出席者

前田裕学長、青田浩幸副学長、佐々木保幸学長補佐、菅原慎悦准教授（社会安全学部）、
松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、植田光雄学長課長、依藤康正広報課長、
西川武志広報課副主幹　ほか

以　上

【次回のメディア懇談会（第 138 回）について】

2021 年 9 月中旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

「安全／安心」の二分法を超えて
―原子力の「安全目標」の議論から―

社会安全学部准教授　菅原慎悦

【概要】

社会安全学部の HP を開くと、「いのちを守り、救い、支えぬく　安全・安心という至高の価値」と書かれています。本学部の理想を明快に表現している一方で、一研究者としては、「安全・安心」の部分に少し立ち止まってみたくなります。近年の日本では、「安全」＝科学的・客観的なもの、「安心」＝感情的・主観的なものという見方が根付いていますが、「安全」とは果たして科学的に決まるものなのでしょうか？

COVID-19 をめぐる緊急事態の宣言や解除の基準について論争があるように、科学的に見える「安全」の数値であっても、その背後には様々な判断が介在しています。何が「安全」かを見定める上で科学を踏まえることはもちろん不可欠ですが、それだけでは決まらない場合がほとんどです。国際標準化機構（ISO）は「安全」を「許容できないリスクがないこと」と定義していますが、この「許容できない」という形容詞は、「安全」が主観的判断を伴うことを象徴していると言えます。

では、「安全」の判断は、誰がどのようにして行えばよいのでしょうか？　私が取り組んできた原子力のリスク分野では、「どれくらい安全であれば安全と言えるか？」(How safe is safe enough?）という問いに、長年向き合ってきました。周知のように、どれほど技術的な努力を重ねても、原子力事故が起きるリスクは残念ながらゼロにはできません。いったい、どのような態様・程度のリスクならば、社会はそれを「安全」と見なせるでしょうか。

この問いに対する「答え」として、米国は 1986 年に「安全目標」を策定し、社会的に受容可能と考えられるリスクとは何かを明確化しています。日本でも、福島第一原発事故後の 2013 年、原子力規制委員会が「安全目標」を決めたとされていますが、そこには様々な課題が見受けられます。本懇談会では、この「安全目標」をめぐる考察を紹介しつつ、「安全」のあるべき姿についての議論を深めていきたいと思います。

【プロフィール】

1984 年、神奈川県横須賀市生まれ。2007 年、東京大学工学部都市工学科卒業。2012 年、東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻博士課程修了。同年、（一財）電力中央研究所に入所。2019 年 9 月、関西大学社会安全学部に着任。元々はいわゆる「文系」でしたが、学部の途中で工学部に進学して以降、工学や技術の現場に近い組織に身を置いてきました。現在は、人文・社会科学の知見を技術システムのリスク評価やリスク管理にどのように活用できるかという観点から、特に原子力を対象として研究を行っています。